

Rinnai

ガス給湯器

設置工事説明書

この機器の設置には資格が必要です。

品名	RUK-V1610W
	RUK-V1610W-E
	RUK-V1611W-E

1 安全上のご注意

この機器を安全に設置・使用していただくために、下記のことを必ずお守りください。これらの注意事項は安全に関する重要な内容です。表示と意味は次のようになっています。

表示	意味
	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示については次のような意味があります。

- 一般的な禁止
- 必ずアース線を接続する
- 電源プラグをコンセントから抜く
- アースする

警告

- 機器の設置・移動および付帯工事には専門の資格・技術が必要です。工事は必ずお買い上げの販売店またはもよりのガス会社に依頼し、有資格者による正しい工事が行われるようにしてください。
- 工事は必ず本書と「ガス機器の設置基準及び実務指針」（一般財団法人日本ガス機器検査協会刊）に従い、関係する法・条例などを遵守してください。この設置工事説明書に記載されている以外の設置が原因で生じた故障および損傷・人身事故などは工事者の責任となります。また保証期間内でも保証の対象となりません。

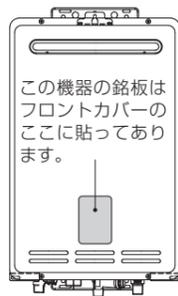
- 機器の設置場所が2・3ページの「2 設置場所の確認」の項の条件を満たしていることを確かめてください。

- 給気・排気が十分できる場所（開放スペース）に設置してください。壁などに囲まれた場所への設置は不完全燃焼の原因となります。また、燃焼排ガスが建物の壁や窓・植木やペットなどの動植物・エアコン室外機などの付帯設備に当たらないように設置してください。燃焼排ガス中の水蒸気の結露による変色・破損・腐食などの原因となります。

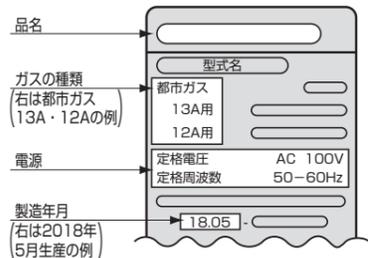
- 必ずD種接地工事（アース）を行ってください。アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線には接続しないでください。接地工事が不完全な場合は、感電の原因になることがあります。



- 設置する機器が使用するガスの種類（ガスグループ）および使用する電源（AC100V・50-60Hz共用）に適合していることを機器の銘板で確認してください。表示以外のガスを使用すると不完全燃焼や異常点火の原因となりますので使用しないでください。



※下図は銘板の一例です。



- この機器はAC100V（50-60Hz）用です。AC100V以外の電源電圧では使用できません。

・ 社の定める施工要領を逸脱しない据付工事に不具合（瑕疵）が生じ、施工者が無償修理や損害賠償を行った場合、BLマークの紙証の貼付（又は刻印等）がされている部品については、一般財団法人ベターリビングのBL保険制度に基づき保険金が支給されます。
 ・ BL保険制度や当住宅部品の施工要領の詳細については、一般財団法人ベターリビングのホームページ（http://www.cbl.or.jp/）をご覧ください。なお、BL保険制度に関する質問は、一般財団法人ベターリビング（TEL03-5211-0559）でもお受け致します。



070 00000 92464 4
U217-886X14(00)

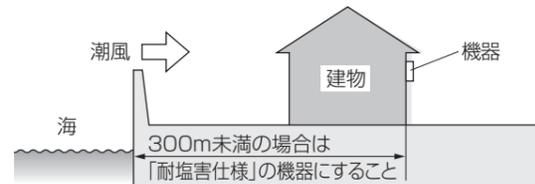
注意

- 給水配管（できるだけ機器の近く）には、必ず給水元栓を取り付けてください。機器の点検ができなくなったり、誤動作の原因となります。
- 温泉水や地下水や井戸水は、水質によっては機器を腐食させるおそれがありますので、機器に接続しないでください。
- 機器の点検・修理作業の際に危険を伴う場所（高所など）や機器の正面で作業ができない場所へは設置しないでください。
- 車両・船舶への設置はしないでください。故障の原因となるだけでなく、思わぬ事故を招くおそれがあります。
- この機器は一般家庭用です。業務用（飲食店など）に使用すると、機器の寿命が極端に短くなります。

2 設置場所の確認

機器は安全に正しく設置してください。

- 設置場所をお決めになるとき、次の事項をよく読んでからお決めください。
- 沿岸部で潮風に当たりやすいなど、塩害が懸念される地域では、以下の点に留意してください。
 - ・ 機器は建築物の風下に設置する。やむを得ず海岸面に設置する場合は、機器に直接潮風が当たらないような防風措置を施す。
 - ・ 水はけの良い場所に設置する。

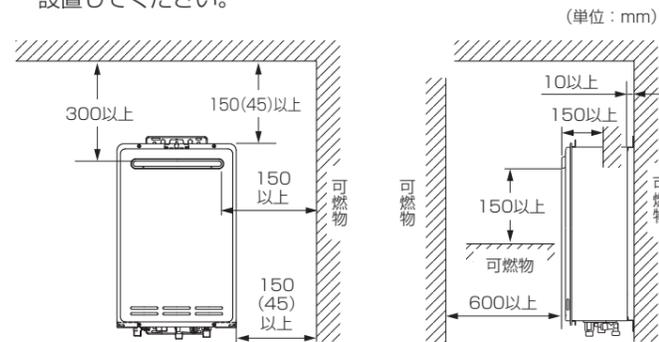


- ・ 海から300m未満の場所に設置する場合は、必ず「耐塩害仕様」の機器を設置してください。
- ・ 「耐塩害仕様」は耐食性が向上する塗装であり、すべての腐食を防ぐものではありません。

- 近隣の家に騒音で迷惑にならない場所に設置してください。
- 建物の設計段階から設置方法ならびに配管・配線工事方法に関し、十分打合わせをしておいてください。
- 屋外壁掛設置や屋外据置設置（別売の据置台が必要）もできます。
- 車両や船舶には絶対に使用しないでください。
- この機器は海拔1,000mまで使用できます。1,000mを超える地域で使用すると、点火不良などの不具合が発生することがあります。

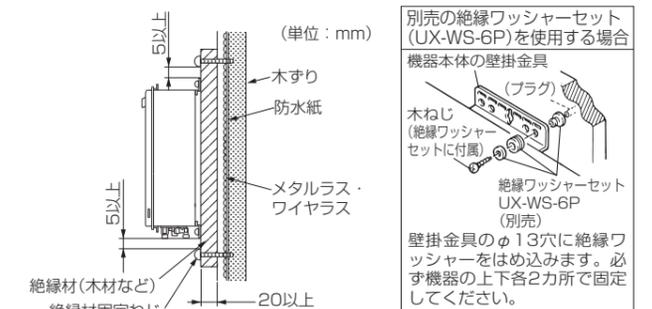
火災予防について

- ガソリン・ベンジン・接着剤などの引火性危険物を扱う場所には設置しないでください。
- 機器を設置する場所の周囲の壁・天井などが防火上安全なものであるか、または防火上有効な間隔をとることができる場所に設置してください。



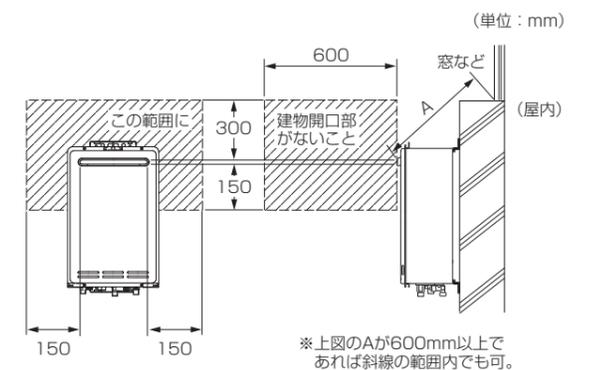
※上図は機器と「不燃材料以外の材料による仕上げをした建築物などの部分」との離隔距離です。（ ）は防熱板（金属以外の3mm以上の不燃材料）を取り付けた場合および「不燃材料で有効に仕上げをした建築物などの部分」との離隔距離を示します。

- メタルラス張り・ワイヤラス張りなどの木造の造営物に機器を取り付ける場合は、電気設備技術基準により、メタルラス・ワイヤラスなどと機器が電氣的に接続しないように施設する必要があります。



給排気について

- 給気・排気が十分できる場所（開放スペース）に設置してください。壁などに囲まれた場所への設置は不完全燃焼の原因となります。
- 機器の排気口から、下記寸法を壁面に投影した範囲内に、燃焼排ガスが室内に流入するおそれのある開口部がないことが必要です。ただし、排気口から600mm以上離れた部分は除きます。



- 地域によっては火災予防条例などで規制されている場合があります。その場合は条例に従って取り付けてください。
- 線入板ガラスの耐熱強度は、一般ガラスの約半分程度で割れやすいため機器の排気方向（約1m以内）に線入・網入板ガラスなどがある場合、燃焼排ガスの熱でガラスが割れるおそれがありますので設置をさけるか排気方向変更の処置を必ずとってください。

設置場所の雰囲気について

- アンモニア・塩素・硫黄・酸類など腐食性ガスの発生する場所には設置しないでください。熱交換器のつまりなどにより不完全燃焼の原因となります。
- 燃焼排ガスが、直接建物の外壁やアルミサッシなどに当たらないように設置してください。また、動植物への影響も考慮してください。外壁の変色・アルミサッシの腐食・動植物への危害の原因になります。
- 換気扇・レンジフードなどからの風が機器の給排気に影響を与える場所への設置はしないでください。
- 別売の台所リモコンは、ガステーブル・ガスコンロなど燃焼機器の上には設置しないでください。変形したり、性能が悪くなったり、電子部品がこわれたりします。また、蒸気・水しぶき・水滴・直射日光のあたる場所には設置しないでください。

燃焼排ガスについて

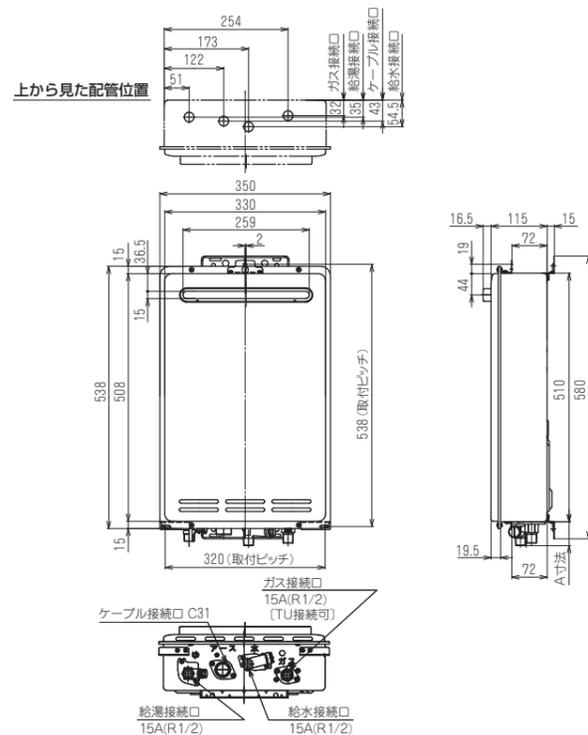
- 燃焼排ガスが建物の外壁や窓・ガラス・網戸・アルミサッシ・エアコン室外機などの付帯設備に当たらないように設置してください。燃焼排ガス中の水蒸気の結露による変色・破損・腐食の原因となります。設置場所の選択で対処できない場合は、4ページの「5 別売部品」にある排気カバーや側方排気アダプタで燃焼排ガス吹出方向を変更するなどしてください。
- 燃焼排ガスによって加熱されると困るもの（植木・ペット・耐熱性が低い樹脂など）の周囲には設置しないでください。植木が枯れたり、ペットに悪影響をおよぼしたり、樹脂が変形する場合があります。
- 他の燃焼機器と向かい合うような場所への設置は避けてください。お互いの燃焼排ガスを給気して、不完全燃焼などの原因になるおそれがあります。他に設置場所がない場合は、別売の側方排気アダプタで燃焼排ガス吹出方向を変更し、どちらの機器も新鮮な空気を給気できるようにしてください。

保守・点検のためのスペース

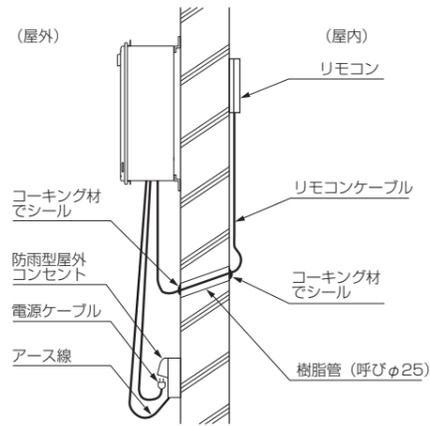
- 機器の点検・修理ができるよう十分なスペースを確保し、特に機器前方は600mm以上の空間を設けてください。
- 高所の外壁に機器を設置する際は機器本体正面で作業を行うことができ、かつ2階以上では落下防止の手摺などの措置のある場所（ベランダなど）に設置してください。

3 外形寸法図

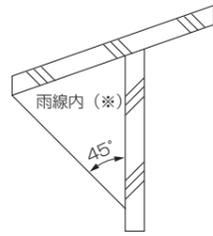
(単位：mm)



機器の設置条件



- 避難通路となるベランダに設置する場合は、有効な避難通路幅600mm以上を確保してください。
- コンセントは、できるだけJIS防雨型コンセント（接地端子付）を設けてください。防雨型コンセント以外の場合は、コンセントに雨がつかないように、雨線内（※）に設置するか、外箱を設けるなどの有効な処置をしてください。
- コンセントに接地端子が付いていない場合は、D種接地工事を行ってください。
- コンセントは地上（G.L.）から300mm以上の高さの位置に取り付けてください。
- コンセントとガス管および水道管とは100mm以上離してください。
- 機器の水抜き栓からの水が直接コンセントにあたらない位置にしてください。



4 付属部品

●梱包内には下記の付属部品が入っています。設置工事の前にご確認ください。

品番	部品名	個数	備考
1	木ねじ	5	φ4.8×ℓ38
2	プラグ	5	SX 6×30
3	小ねじ (M5×10)	3	使用しません。

品番	部品名	個数	備考
4	取扱説明書	1	保証書付
5	設置工事説明書	1	本書
6	所有者票	1	個人情報保護シール付

5 別売部品

●別売部品は機器の必要に応じて別途お買い求めください。

品名	型式
台所リモコン	MC-135
	MC-33-A
浴室リモコン	BC-135
	BC-45-A
2芯ケーブル (台所・増設リモコン用)	UC-25-□□ UC-27-□□ (リモコン側…Y型端子) (機器側…Y型端子)
	UC-25C-□□ UC-27C-□□ (リモコン側…2Pコネクタ) (機器側…Y型端子)
コネクタ付2芯ケーブル (浴室リモコン用)	UC-25C-□□ UC-27C-□□ (リモコン側…2Pコネクタ) (機器側…Y型端子)
絶縁ワッシャーセット	UX-WS-6P
壁掛補強板	UX-0021

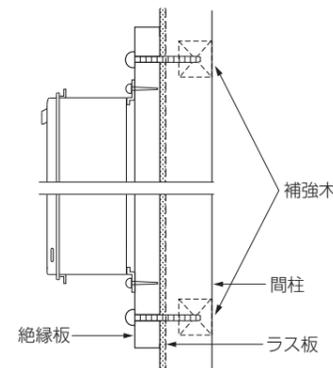
品名	型式
コネクタセット	UX-2-C (UC-25-50・UC-25-100・UC-27-50・UC-27-100ケーブルをコネクタ付に改造する場合に使用)
	BC壁貫通取付セット
浴室リモコン 取付壁厚 (mm)	(部品コード) 190~280 801-003-000 (標準品はBC-KT-3) 280~370 801-004-000 (に付属)
配管カバー	UOP-K101 (K)
据置台	UOP-K201
排気カバー	UOP-G301-24
側方排気アダプタ	UOP-G304-24

6 機器の設置工事

- 給湯器の設置場所については、建築基準法や電気設備技術基準・ガス事業法・液化石油ガス法・消防法に基づく火災予防条例などによって防火処置の基準が定められています。以下の事項の他に、各都道府県市町村の条例に従ってください。
- 平成25年4月施行の建築基準法改正に準拠するため、木ねじやプラグは必ず付属のものを使用してください。

1. 機器の取り付け手順

- 設置する壁には満水時約15.5kgの重量が加わりますので十分な強度がない場合は補強工事をしてください。
- 必ず垂直な壁に取り付けてください。
- メタルラス張り・ワイヤラス張りなどの木造の造営物に機器を取り付ける場合は、電気設備技術基準により、メタルラス・ワイヤラスなどと機器が電氣的に接続しないように施設する必要があります。

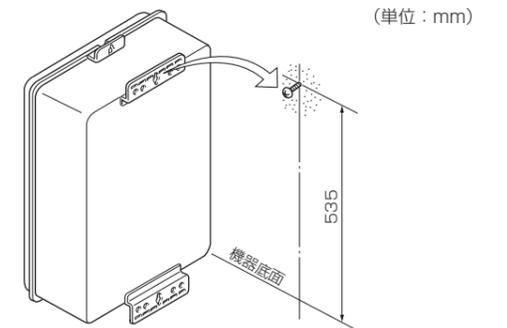


- ・あらかじめ厚手の補強木を組み込んでおき、外装仕上後に木材などの絶縁板（厚さ20mm以上）を固定し、絶縁板に機器を固定する。
- ・間柱に絶縁板を固定し、絶縁板に機器を固定する。

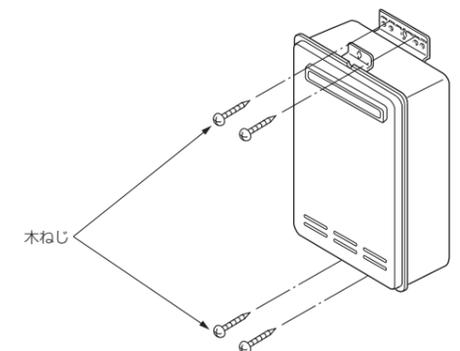
- ALC工法
ALC工法への設置は、別売の据置台を使用する設置方法を推奨します。設置工事方法は、据置台の設置工事説明書をご覧ください。
注) 推奨する設置方法や設置基準はガス会社によって異なりますので、ガス会社へもお問い合わせください。

1) 木ねじで取り付けの場合

- ①機器の中心線上、機器底面より535mmの位置に木ねじを途中までねじ込んでください。

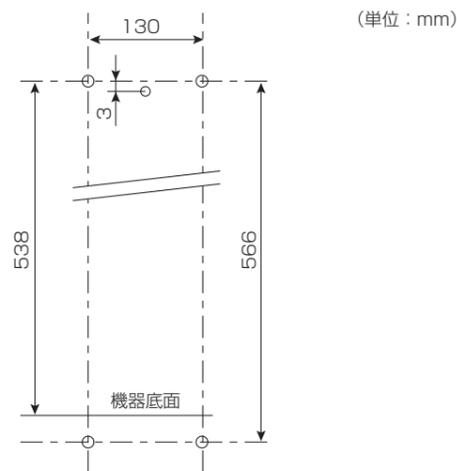


- ②機器上部、中央の切欠部を木ねじに引掛けてください。
- ③機器の上下各2個の長穴に、木ねじをねじ込み、機器を固定してください。このとき、木ねじの有効打ち込み長さが15mm以上になるようにしてください。



2) プラグと木ねじで取り付ける場合

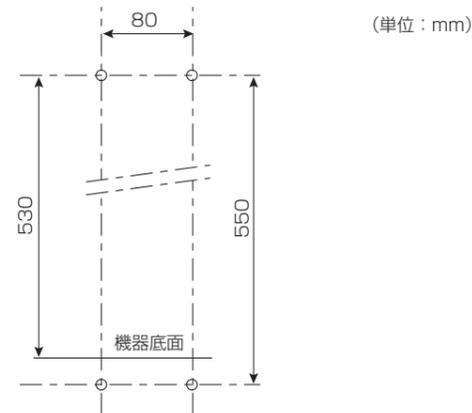
- 下図5カ所の下穴をあけ、プラグを打ち込んだ後、1) -①～③の手順に従い、取り付けてください。



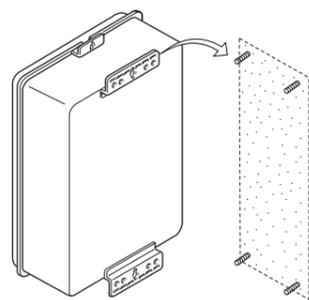
※プラグの下穴径はφ6、深さ40mm以上としてください。

3) アンカーボルト・長寸ボルトを使用して取り付ける場合

- ①下図の位置にアンカーボルト（長寸ボルト）を取り付けてください。



- ②機器の取付金具の丸穴（上下各2カ所）をアンカーボルト（長寸ボルト）に引掛け、六角ナットで固定してください。



7 給水・給湯配管工事

- 配管工事は給水事業者の指定工事店に依頼し、給水事業者の規定に従ってください。
- 水源に市水道を使用する場合は、各市町村水道局の条例に基づき施工してください。
- 温泉水や地下水や井戸水で使用すると、水質によっては機器内配管に異物が付着するなど、耐久性を損なうことがありますので接続しないでください。

配管上のご注意

- この機器の配管接続は15A (R1/2) になっています。配管径は給水・給湯とも15Aで配管してください。
- 保守・点検および水抜きのため、給水接続口の近くに給水元栓を設けてください。
- 給水配管と機器を接続する前に給水元栓を開けて、給水配管内のゴミ・砂を流し出してください。そして接続後、通水テストを必ず行い、給水元栓を閉めてから給水接続口内部のストレーナを取り出し、ストレーナを掃除してください。
- 給水配管の接続部には、機器の給水接続口の近くに逆止弁を設けるか、逆止弁付き給水元栓を必ず取り付けてください。また、給水接続口と逆止弁との間の配管には鉛管・塩ビ管を絶対に使用しないでください。
- 給水・給湯配管は金属製の管（銅管など）を使用してください。鉛管・塩ビ管は使用しないでください。
- 銅管を使用する場合は、必ずロー付けにて接続してください。
- フレキシブルチューブをお使いになるときには、地域の水道条例によって規制されている場合がありますのでご注意ください。
- フレキシブルチューブが使えないときは、必ずユニオン継手を使用し、給水・給湯配管には水抜き用の排水栓を設けてください。
- 給水・給湯配管（フレキシブルチューブを含む）はすべて保温してください。

- 継手類はできるだけ少なくし、複雑な配管はさけてください。
 - 配管途中に空気溜りのできるような配管はさけてください。
- ※配管材料は必ず関係水道局の承認または検査に合格したものを使用してください。

給水配管

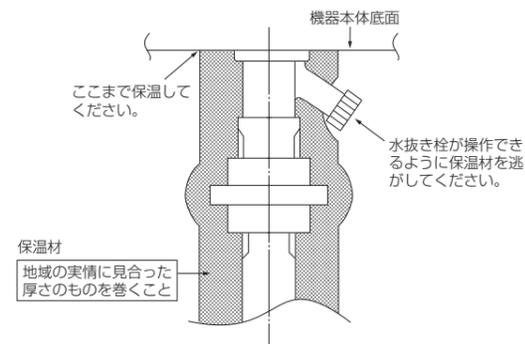
- この機器の最低作動水圧は10kPa (約0.1kgf/cm²) です。
 - この機器をお客様に快適に使っていただくには、給水圧が150～600kPa (約1.5～6kgf/cm²) は必要です。特に給水圧が低い場合には、機器の能力が十分に発揮されず、お客様とのトラブルの原因にもなりますので、加圧ポンプを設置するなどの対策を講じてください。
- ※給水圧は通水時の圧力です。
- 給水圧が高い場合は、減圧弁を取り付けるかウォーターハンマー防止措置を行ってください。

給湯配管

- 混合水栓は通水抵抗の少ない機種を選んでください。また、シャワーヘッドは極力、瞬間湯沸器用の圧力損失の少ないものを使用してください。
- 配管はできるだけ給湯器と同じ高さで行ってください。階上に配管する場合には余分に給水圧が必要になります。(1mにつき10kPa (約0.1kgf/cm²) ずつ余分に必要になります)
- できるだけ短距離に配管してください。給湯配管が長くなれば、それだけお湯の出始めが遅くなり燃料のムダにもなり、使用上不便を感じます。
- 2カ所以上で同時にお湯を使用するときには、給湯配管の方法・給湯栓の開き具合によってそれぞれの給湯栓からのお湯の量が異なることがあります。特に給湯器から遠い場所・高い位置の給湯栓ではお湯の出ない場合もありますので、十分ご検討のうえ設置してください。

凍結予防

- 配管内の水抜きが容易にできるように処理をしてください。
- 給水・給湯配管からの水漏れがないことを確認したのち、配管を完全に保温してください。
- 水抜き栓を保温材で包み込まないでください。



8 ガス配管工事

1. 機器へのガス接続に必要な資格について

- 都市ガス用機器の場合、内管工事士・簡易内管施工士・ガス機器設置スペシャリスト・ガス可とう管接続工事監督者のいずれかの必要な資格を有する者が施工すること。
 - LPガス用機器の場合、液化石油ガス設備士の資格を有する者が施工すること。(ガス機器設置スペシャリストは「燃焼器用ホース」の交換のみ施工可能)
- なお、液化石油ガス設備工事を行う事業者は、事業所ごとに所在地を管轄する都道府県知事に「特定液化石油ガス設備工事事業開始届書」を提出する必要があります。

2. ガス栓

- 機器を使用する場所にガス栓がない場合、あるいはあっても位置や寸法などが適切でない場合には、新設・移設・交換などが必要ですので、ガス事業者にご相談ください。
- 専用のガス栓を設けてください。

9 電気工事

- この機器にはAC100V電源が必要です。電気配線については電力会社の指定工事店にご依頼ください。
- 電源ケーブルが余る場合は機器の外で処理してください。(機器の中へは絶対に押し込まないでください)

電源用コンセントについて

- 機器を設置する場所に電源コンセントがない場合やあっても適切でない場合には、新設・移設・交換などが必要です。
- 機器の電気関係の仕様（電圧・周波数・消費電力）を確認してください。
- 電源コンセントは機器の後にならない位置で排気口の放熱を受けないようにしてください。

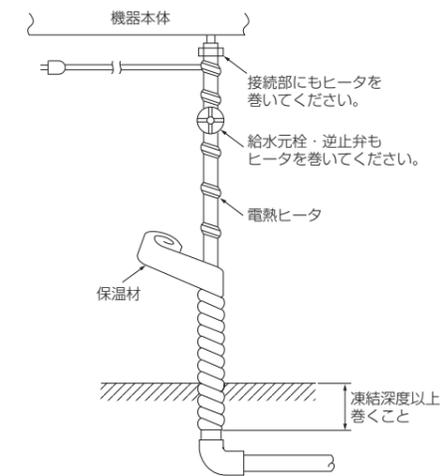
接地工事について

- 電気設備技術基準によるD種接地工事（アース工事）を行ってください。(接地抵抗100Ω以下)
- 接地工事が不完全な場合は感電の原因になることがあります。
- アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線には接続しないでください。
- 電気設備技術基準により、漏電したとき自動的に電路をしゃ断する装置（漏電しゃ断器）を電源側に設けてください。
- 機器底面にアースの文字で接地端子部を表示してあります。



アースする

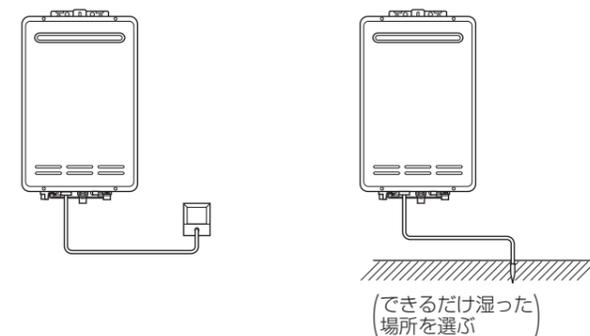
- 寒冷地においては、配管には電熱ヒータを巻きつけるなどの凍結予防措置を行ってください。



3. ガス接続

- ガス接続口径は15A (R1/2) [TU接続可] になっています。
- ガス栓と給湯器の間には必ずユニオン継手を取り付けてください。
- 接続はガス事業者の指定する工事店に依頼してください。
- 給湯器は多量のガスを短時間に燃焼しますから、ガス量が十分供給されるようにご検討ください。
- LPガスをご使用の場合LPガス容器は50kg2本を併用してください。また、機器からは2m以上離して設置してください。
- 都市ガスの場合はガス流量が多いため、配管途中の圧力損失が大きくなりますから十分余裕のある配管にしてください。

- コンセントにアース端子が付いている場合
- アース棒を使用する場合



- 電源ケーブルに3芯ケーブルを使用して接地する場合は、本体内の接地端子（右図参照）に結線してください。

工事手順

1. 防雨型屋外コンセントから電源を取る場合

- 機器から1.5m以内にコンセントが必要です。(電源ケーブルの長さは約1.8mです)
 - (1) 機器底面の「アース」の文字で表示されたねじにアース線を接続してください。
 - (2) コンセントの接地端子にアース線を接続してください。
 - (3) 電源プラグをコンセントに差し込んでください。
- ※アース線は公称導体断面積2mm²以上（銅線径φ1.6以上）の被覆銅線を使用してください。

2. ケーブル工事をする場合

※端子台へのねじ締めは必ず手締めで行い、電気ドライバーは絶対に使用しないでください。基板破損のおそれがあります。

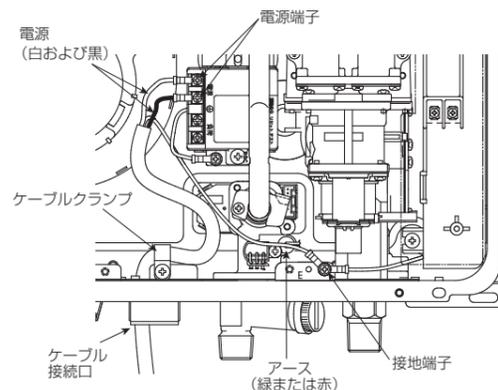
- (1) 機器のフロントカバーを取りはずしてください。(ねじ4本)
- (2) 機器の電源ケーブルを取りはずしてください。
- (3) 機器本体底面のケーブル接続口より電源ケーブルを引き込んでください。

※電源ケーブルは下記を使用してください。

100V電源ケーブル (パイプシャフト用)	ビニールキャブタイヤケーブル VCT 公称導体断面積2mm ² ×3芯
--------------------------	--

- (4) 電源ケーブルの黒・白線を機器本体内の電源端子に、他の色(緑または赤)をアース用として本体内の接地端子(「E」の文字で表示)に、それぞれ接続してください。

- (5) 電源ケーブルを下図のように、ケーブルクランプで固定してください。



- (6) 分電盤のスイッチを「切」にしてください。
●分電盤は専用回路としてください。
- (7) 分電盤の電源用端子に電源ケーブルの白線および黒線を、アース端子に他の色(緑または赤)の線を接続してください。
注) 分電盤アース端子の接地抵抗(100Ω以下)を確認してください。
- (8) 分電盤のスイッチを「入」にしてください。
- (9) 機器本体内の漏電安全装置の動作確認をしてください。
- (10) フロントカバーをもと通りに取り付けてください。

10 別売リモコンの接続

- この機器は本体だけで恒温タイプとして使用できますが、別売のリモコンを接続すればさらに便利にお使いいただけます。
- 機器を恒温タイプとして使用する場合、給湯栓は必ず混合水栓を使用してください。
- 恒温タイプの出湯温度は本体の電装ユニットで設定した温度(42℃・60℃または70℃)になります。
- 台所リモコン・浴室リモコンのいずれか1台か、その両方を各1台接続することができます。ただし、異なるシリーズのリモコンを組み合わせることはできません。下表の組み合わせで接続してください。

台所リモコン		浴室リモコン
MC-135	+	BC-135
MC-33-A	+	BC-45-A

- 機器本体からリモコンまでの接続線は24V以下ですので、この配線工事は「小勢力回路の工事」に該当し、電気工事士の資格がなくても工事できますが、電気設備技術基準に合った電気工事で施工してください。
- 2芯ケーブルが余る場合は機器の外にて処理してください。(機器の中へは絶対に押し込まないでください)

※端子台へのねじ締めは必ず手締めで行い、電気ドライバーは絶対に使用しないでください。基板破損のおそれがあります。

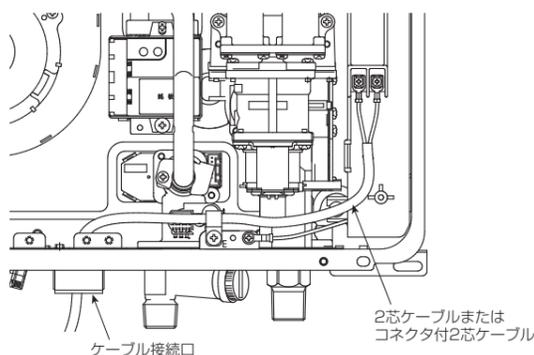
■リモコンの取り付け

- リモコンに付属の「リモコン設置工事説明書」を参照し、正しく取り付けてください。

■機器との接続

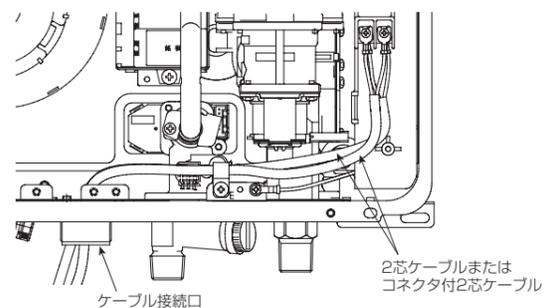
- 電源プラグを抜いてください。(分電盤の専用スイッチを「切」にしてください)電源を入れたままケーブル工事をしますと電装品が破壊されることがあります。
- (1) 機器のフロントカバーを取りはずしてください。
- (2) 機器本体底面のケーブル接続口から2芯ケーブルを引き込んでください。
- (3) 電装ユニットの接続端子に2芯ケーブルを接続してください。(⊕⊖の極性はありません)

リモコンを1台だけ接続する場合



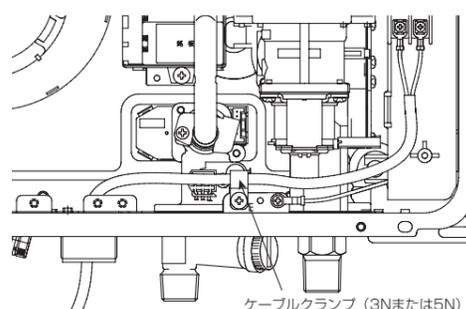
リモコンを2台接続する場合

- 下図のようにダブルで接続してください。



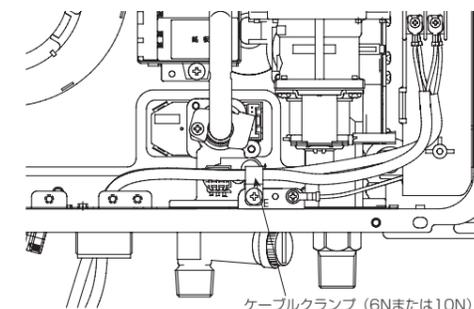
- (4) 2芯ケーブルを下図のようにリモコンに付属(MC-135・BC-135は現場手配)のケーブルクランプ(3Nまたは5N)で固定してください。

リモコンを1台だけ接続する場合



リモコンを2台接続する場合

- 2芯ケーブル2本をリモコンに付属(MC-135・BC-135は現場手配)のケーブルクランプ(6Nまたは10N)と一緒に固定してください。



- (5) フロントカバーをもと通りに取り付けてください。
- この機器はリモコンに異常(故障・ケーブル断線など)が生じた場合、自動的に恒温タイプとなります。

※2芯ケーブルが機器のヒータに接触しないように配線してください。また、2芯ケーブルを設置したことにより、ハーネスなどがヒータに接触していないか確認してください。

11 設置工事後の確認

設置工事が終わりましたら、もう一度機器まわりの工事について点検をしてください。

■機器の設置状態

- 可燃物および可燃性部分との離隔距離は確保されていますか。
- 日常の使用および点検に支障をきたしませんか。

12 試運転および試点火

- 取扱説明書の内容に基づいて試点火を行い、正常に動作することを確認してください。
- ガス配管中に空気が溜まっている場合には点火しないことがあります。その場合には、下記の手順に従って実施してください。
- (1) リモコンが接続されている場合は、リモコンの運転スイッチを「入」にしてください。
- (2) 給湯栓(混合水栓のお湯側)を全開にしてください。
- (3) 15秒程たったのち、給湯栓を閉めてください。
- (4) 上記(2)および(3)を繰り返し、お湯が出ることを確認してください。

- 試運転が終わりましたら、すぐご使用になる場合を除きガス栓を閉め、取扱説明書に従って必ず水抜きを行ってください。
- この機器は常時約3.0Wの電力を消費しますので、すぐご使用になる場合を除き、必ず電源プラグを抜いてください。(分電盤の専用スイッチを「切」にしてください)

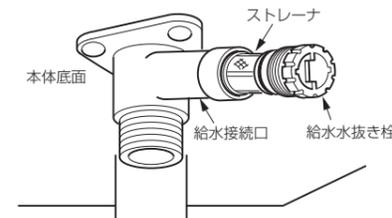
※凍結予防の水抜き

- 通水後、配管や機器内に残った水は、お客様が使用されるまでの期間放置すると、凍結して機器が破損するおそれがありますので、完全に水を抜きとってください。

■給水・給湯・ガス配管

- 配管接続部から水・ガス漏れがありませんか。
- 給水圧力は十分ありますか。
- ガス圧力は適切ですか。

- 水抜き終了後に再度ストレーナの掃除を実施してください。



- 水抜き終了後は必ず水抜き栓をすべて閉めてください。水抜き栓は工具で締め付けしないでください。破損のおそれがあります。
- 配管カバーや据置台のフロントカバーを確実に固定してください。(配管カバーや据置台を使用している場合)
・フロントカバーを固定するビスがゆるかったりはずれていたり、下部差込個所がはずれていると、フロントカバーがはずれて、思わぬ事故の原因となります。
・配管カバーや据置台に付属の工事説明書を参照してください。

○お客様への説明

- 取扱説明書によって、使用方法を説明してください。特に「安全上のご注意」「使用方法」をよく説明してください。
- 保証書に必要な事項を記入のうえ、取扱説明書と本書をお客様にお渡しして、取扱説明書に従って「保証・サービス」について説明してください。